

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）10

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43785

不才如内任一田中大任(一〇一六)

米
長
米
長

相
談

スタイナー会及内情について

44.10.16 田中

16日スタイナーよりラニチの招待を受け
 急造したものの際先方から返ったものは
 次の通り。
 沖縄返還交渉については昔田声明は核の非有
 を残すだけとされたが、日米間には経済
 問題特に繊維の問題あり、沖縄については
 野田内閣は昔田声明の字句は福田
 大蔵大臣の草紙の石に手交した程度で
 よいであらうが、実便問題については合意は
 運ぶ必要あり(米側は理屈上と云うが)、
 大統領としては日米関係の重要問題
 處理については全体の姿の整理と似た形
 についてこれを検討し沖縄返還特許は核
 の問題については最終決定を行わねばと考
 えている。
 日防省は核協定を以て互利であるが、軍
 は軍事的立場からかかる態度をとるのは当然
 である。日防省は政治的観点よりこの問題
 を考えており、自分の経験でもワトハウス

十月十七日の中米大領事会談の経過

は日米関係の打ち全般の考慮よりこの問題
 検討は12日、又大統領自身日米に知り、
 核については特殊事情についての協議を
 もつた。然し大統領としては上道であり、
 日米間の諸問題の10日12日又至作として
 この際、核については同様に土佐の12日つき一
 日途のついでに上つ核の處理については決
 定を行なうこととなる。
 (鶴岡防省は日米間の態度を保留するかの
 点につき) 最も重要な問題は日米両政府首
 脳に決定してもらうことにはないが、但し
 日防省としては日米関係の他の諸問題に
 ついての思慮の立ちは、大統領との進言
 をいさかかす情状を恐るべきではない。ジ
 ニヤニヤは大統領の信任が厚い。従って
 この問題は他の諸問題についての思慮し
 かつくというのとタイミングにおいて関連性
 をもつ。(スタイナーは経済問題については使
 用は日米に日米理(向き盛人)は打撃して
 いたが、これは関連し、核の問題について
 同人のメリットをコンパスを考慮するあり

ニカエ 之ニ12 気を引きくという態度の見ら
れぬ。尚 15日 衆議院の席上^{お前中の}口頭答へ
は 核の問題は目下 顧問官の権限
に於てありと述べ 事務当局と12日 核の
リポートを提出せしめられたこと^{述べられた}
(万が一 核の行方^を話し合ふこととなす)
(衆議院外相答へは^{新聞} 新聞の核の問題
は 緊急に持込のラインに於て 處理せらるること
記事に掲載した~~こと~~ こと12日(英)にて)ニカエ
政府筋より流したものでなく ス^キキ^シと
と見う。曾て口頭答へで各種の案を述べ
たことニカエ 其の一つである。又ニカエ 同日
声明で處理せらる、別途の合意を必要とせらる
は 同日声明の表現如何に依つて異なる。
(尚 ス^キキ^シは 核の行方^を問題は NATO と日英
とは口頭答へで考へて見ると述べられた
以上述べたところは 日英の在野筋の代
の経験上の考へ方であり、最近 核の問題
は 12日(万が一)の訓令に接して見ると 万
が一 核の行方^をは 12日(万が一)と見ると
と答へ 最近^の 衆議院答へ内の事情は承知して